

教育領域における社会的ニーズへの取り組み  
ー日本国内におけるソーシャルワーク的支援に関する研究③ー

○山梨県立大学 田中 謙 (009079)

大津 雅之 (山梨県立大学・005538)、高木 寛之 (山梨県立大学・006182)

キーワード：教育、スクールソーシャルワーク、療育

## 1. 研究目的

本研究では教育領域におけるソーシャルワークとの接点について扱いながら、日本国内における「ソーシャルワーク的支援」に関する研究を行うこととする。

教育領域におけるソーシャルワークとの接点に関して、今日ではスクールソーシャルワーク (SSW) やスクールソーシャルワーカー (SSWr) の導入が注目されているが、幼児児童生徒およびその家庭に関する社会的ニーズは昔から「存在」し、教員や教育機関が他領域等との連携を通して対応してきた。また障害乳幼児支援においては、地域に応じて教育、福祉、保健医療領域の各関係機関で対応してきた歴史を有しており、これらの関係機関間での連携や「住み分け」等を通して今日の発展があると考えられる。

従って本研究では、教育領域における社会的ニーズへの取り組みについて現状を踏まえながら、障害乳幼児支援に焦点を当てて歴史的展開を追うこととした。

## 2. 研究の視点および方法

本研究では、スクールソーシャルワークと療育をキーワードに 1950 年代以降から今日までに発行された文献を調査し、それらの文献に掲載されている「ソーシャルワーク的支援」に関する記述を時系列的に整理した。

## 3. 倫理的配慮

本研究は文献研究により実施した。文献の取り扱いに関しては、日本社会福祉学会研究倫理指針の規定を順守するとともに、文献の引用については、厳密な倫理的配慮を心がけた上で取り扱うこととした。

## 4. 研究結果

### (1) 教育領域、特に学校における「ソーシャルワーク的支援」

日本において教育領域で SSW が注目を集めるようになるのが、1980 年代後半である。現吉備国際大学保健医療福祉学部教授石田敦がアメリカの SSW の理論を日本で紹介したり、埼玉県所沢市で現日本社会事業大学名誉教授山下英三郎が同市教育センターにおいて校内暴力等に対する教育相談の一環として SSW 実施したものである。こうした先駆的動

きを受けて2000(平成12)年兵庫県赤穂市が関西福祉大学と協働してSSW導入する等広がっていき、2006(平成18)年3月18日日本学校ソーシャルワーク学会設立総会(準備シンポジウム)が行われる。近年では2008(平成20)年4月文部科学省調査研究事業「スクールソーシャルワーカー活用事業」が導入され、全国339地域(46都道府県、293市区町村)にSSWrが順次配置され、SSWrの認知も徐々に広がっている。

## (2) 障害乳幼児支援における「ソーシャルワーク的支援」

一方戦後日本の障害乳幼児支援の歴史を紐解くと、福祉、保健医療領域のみならず、教育領域でも「ソーシャルワーク的支援」の萌芽が見て取れる。

1950～1960年代精神薄弱児育成会(現全日本手をつなぐ育成会)が障害乳幼児支援のための「特殊幼稚園」「特殊保育園」を求める動きを展開し、特に1960年代後半頃から大都市を中心として、障害乳幼児支援の機運が高まる。しかし既存の社会資源のうち、保育所、幼稚園は保母労働問題等もあり機能は限定的であった。また療育機関である精神薄弱児通園施設は養護学校の整備が進まない中で、就学猶予・免除児の「受け皿」でらい、障害乳幼児支援機能はごく限られた施設でのみであった。

そのような中で保護者や大学生、小学校特殊学級担当教員といった特殊教育関係者等が支援の場として「幼児グループ」や通園事業を創設していった。また幼稚園教諭、小学校特殊学級教諭、保母、学生等が実践者として実践および保護者支援に携わっていた。これは「ソーシャルアクション」ともいえる動きであった。

障害乳幼児支援の場合、社会的ニーズは教育、福祉、保健医療等の各分野のニーズが「混在」しており、各分野の「専門職」等が「共同的」に対応していたのである。

## 5. 考察

今日では、幼児児童生徒の家庭を取り巻く問題は複雑化し、それゆえにスクールソーシャルワークやスクールソーシャルワーカーの導入は非常に重要であると考えられる。問題等の性質を考慮すると社会福祉士や精神保健福祉士を配置し、専門的に対応する「チーム学校」体制が必要という点は肯定できる。ただし、スクールソーシャルワークやスクールソーシャルワーカーの導入に当たっては、これまで、教員がどのような「ソーシャルワーク的支援」に対応してきたのかをワーカーが学ぶ意義があるであろう。

過去の教育領域における「ソーシャルワーク的支援」を体系的にまとめたものは数少ない。よって、これまで日本国内において「ソーシャルワーク的支援」を担ってきた教育領域の取り組みを編纂する必要があると考えられる。

## 参考文献

山下英三郎(2003)『SSW学校における新たな子ども支援システム』学苑社 等